

プログラム責任者
からのメッセージ整形外科
教授 池内 昌彦

高知大学整形外科教室は昭和56年に開講し、40年以上にわたって若手整形外科医の「育成」に力を入れてきました。教室出身者は県内外で活躍しており、若手医師の教育に熱心な先輩医師が大勢います。今回、教室のモットーのひとつである「育成」をさらに強化する形で本プログラムを作成しました。大学病院では関節外科、スポーツ、脊椎脊髄外科を中心に手外科や骨軟部腫瘍など全ての領域において大学ならではの最先端医療を経験していただきます。連携施設では外傷を中心に基本的技術と知識を習得していただきます。執刀経験手術数は医師過剰の都会では経験できないような数になるでしょう。いままで以上に大学と連携施設の先輩医師は「育成」の準備をして先生方が来るのを待っています。本プログラムを通じて一人前の専門医になっていただき、高知県の整形外科医療と一緒に盛り上げていきましょう。

プログラムの特色

大学病院と連携施設ではシームレスな教育体制を整えており、プライマリ・ケアや地域医療から最先端の医療や研究まで幅広い学習が可能です。この研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力(知識・技能・態度)が身についた整形外科専門医となることができます。

連携施設名等

	施設名	指導医名	専門分野・特色	手術数
基幹施設	高知大学医学部附属病院	池内 昌彦 教授 他9名	関節外科・スポーツ、脊椎脊髄外科、手外科、骨軟部腫瘍、リウマチ ほか	771
	県立あき総合病院	森澤 豊 副院長 他1名	外傷、上肢	352
連携施設	高知赤十字病院	合田 有一郎 部長 他1名	脊椎脊髄外科、関節外科、外傷	1,108
	県立幡多けんみん病院	橋元 球一 医長 他1名	外傷、関節外科	721
	くぼかわ病院	川添 健生 科長 他3名	外傷、脊椎脊髄外科	337
	須崎くろしお病院	山中 紀夫 科長 他1名	外傷、関節外科	260
	JCHO東京山手メディカルセンター	田代 俊之 部長 他3名	関節外科、スポーツ、上肢	650
	近森病院	西井 幸信 部長 他4名	外傷	1,558
	他10施設			

プログラム到達目標

経験すべき疾患・病態、診察・検査、手術処置等は、「整形外科専門研修カリキュラム」(日本整形外科学会HP参照)に明示された症例数以上を高知大学医学部附属病院及び連携施設で偏りがないように経験すること。自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼される整形外科医師になること。

専攻医
週間スケジュール

高知大学医学部附属病院の例

	月	火	水	木	金
午前	外来、検査	外 来	手術、病棟業務	外 来	手術、病棟業務
午後	総回診	手術、病棟業務	手術、病棟業務	検 査	手術、病棟業務

専門医取得までの
タイムスケジュール

本研修プログラムでは、専門技能を「整形外科専門研修カリキュラム」(日本整形外科学会HP参照)に沿って研修し技能の習得状況を6ヶ月毎に評価します(自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

取得可能専門医

整形外科専門医

- 手外科専門医
- 脊椎脊髄外科専門医
- リウマチ専門医
- スポーツドクター
- リハビリテーション科専門医

主要症例名と
実績数

大学病院では、関節外科、スポーツ整形、脊椎脊髄外科を中心に、手外科、骨軟部腫瘍、リウマチなど整形外科全領域にわたって専門医による診療を行っています。特に、トータルスポーツクリニック、脊椎脊髄センター、リウマチセンターなどで行われる診療科の枠組みを超えた診療が特徴です。

代表的な手術(年間症例数)は、人工膝・股関節置換術(170-180例)、脊椎脊髄手術(200-210例)、膝靭帯再建術(40-50例)、肩腱板修復術(30-40例)、骨軟部腫瘍手術(40-50例)などです。

指導医の声

助教
杉村 夏樹

下肢関節担当の杉村です。我々の専門研修プログラムを選ぶ理由はいくつかあると思いますが、「なぜ高知で」「なぜ大学で」なのか、という問に対する答えにほかありません。「なぜ高知で」かは、個々人の事情があるでしょう。家族が高知だから、高知の海が川が山が人が好きだから、何でもいいと思います。なぜ大学か？第一に、医師の専門性を高めることに最も適した施設だからです。医療を研究する事が大学という組織の使命であるので、研究に対して大学は極めて協力的です。第二に、医局は高知県内の広い人事交流の基点となっているため、県内医師コミュニティの中で様々な人に出会うきっかけになります。教授は全国の様々な施設の偉い人と仲良しですので、県外で研修したいという希望があればその機会を提供することも可能です。その過程で出会う一流の人間達は、我々の考え方を一変させるほどの衝撃を与えます。それはエキサイティングな体験です。高知で整形外科を目指す人はぜひ我々のプログラムにご参加ください。

先輩の声

医員(指導医)
森本 暢

高知大学整形外科専門研修プログラムのメリットは年次最大6名の受け入れであり、指導医との距離が近く、気軽に上級医や身近な先輩に本人の希望する将来的な専門分野や自身の働き方・ライフスタイルについて相談しやすいことだと思います。基幹施設の高知大学では臨床的な研修に加えてアカデミックな内容についての研修も可能で、連携施設には3次救急を行う病院や関節・脊椎・手外科など各専門分野に特化されている病院があります。4年間、決して後悔することのない専門医研修生活が可能です。是非、気軽に当科で見学・研修をしてください。高知を基盤に、日本そして世界で共に活躍していきましょう!!

医員(レジデント)
増島 信也

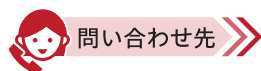
令和3年度入局の増島信也です。県外出身ですが5年生の臨床実習で整形外科の魅力を感じ、また若手や学生に対する指導をしっかりしていただける上級医の先生が多くいたため高知大学の整形外科教室へ入局することになりました。私は都会の整形外科専攻医の現状を把握しているわけではありませんが、当科では毎年の入局者数は多くはないものの一人一人に対する指導が手厚く、経験できる症例も多いことが地方の魅力と考えております。また整形外科は急性期から慢性期の全身を診る科であり治療が患者のQOLやADLに直結するため、やりがいも大きいと感じます。是非一度研修に来てください。

医員(レジデント)
岸 大樹

令和4年度入局しました岸大樹です。生まれも育ちも東京で、高知大入学したことをきっかけに現在高知県で働いています。紙面のスペースの都合もあるので、早速はじめます。専攻医1年目もしくは2年目で大学病院に勤務します。僕は専攻医1年目で大学病院勤務なので大学病院について紹介します。大学病院で勤務するメリットとしては、各分野の専門の先生がいるので、外来や手術についてアカデミックに学ぶことができます…多分これは一般的なことで毎年色んなところで言われていることでしょう(笑)。

当医局では外科系の中ではかなり若手のうちから手術を執刀(途中から上級医に交代など)ができることが強みではないでしょうか。僕も想像していた以上に手術を執刀させてもらい、指導医の先生にみっちり指導してもらえました。

また大学病院の場合は入局してすぐ外部の病院で外来が始まります。これは始めは慣れなかったですが、1年を通じてしっかり外来枠をもつことで患者さんとの関係の構築や、本当の意味でcommonな疾患が来る中で、重大な疾患が来るということを実感できました。外来で困ったことがあれば外部の病院であれど、上の先生にすぐ連絡、相談できる環境にあるのでとても勉強になりました。他にもたくさん魅力、おもしろさがありますが、ここで伝えきことは難しいので、当医局のInstagramで詳しく投稿しています。とりあえず興味ある方は是非フォローしてください!



問い合わせ先

■教室名/整形外科
■担当者名/喜安 克仁
キヤス カツヒト

■電話/088-880-2386
■メー ル/im35@kochi-u.ac.jp